

令和6年3月4日

保護者の皆様

稲沢市立治郎丸中学校長

近藤 慎二

教育活動におけるアンケート調査「学校評価」の集計結果について（報告）

春風の候、保護者の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本年度に実施した教育活動におけるアンケート調査「学校評価」につきまして、集計結果および来年度に向けた方向性がまとまりましたので、報告させていただきます。

記

学校が楽しい 授業がよく分かる、みんなで何かするのは楽しい、授業に主体的に取り組んでいる

1 生徒アンケート

(1) 質問項目

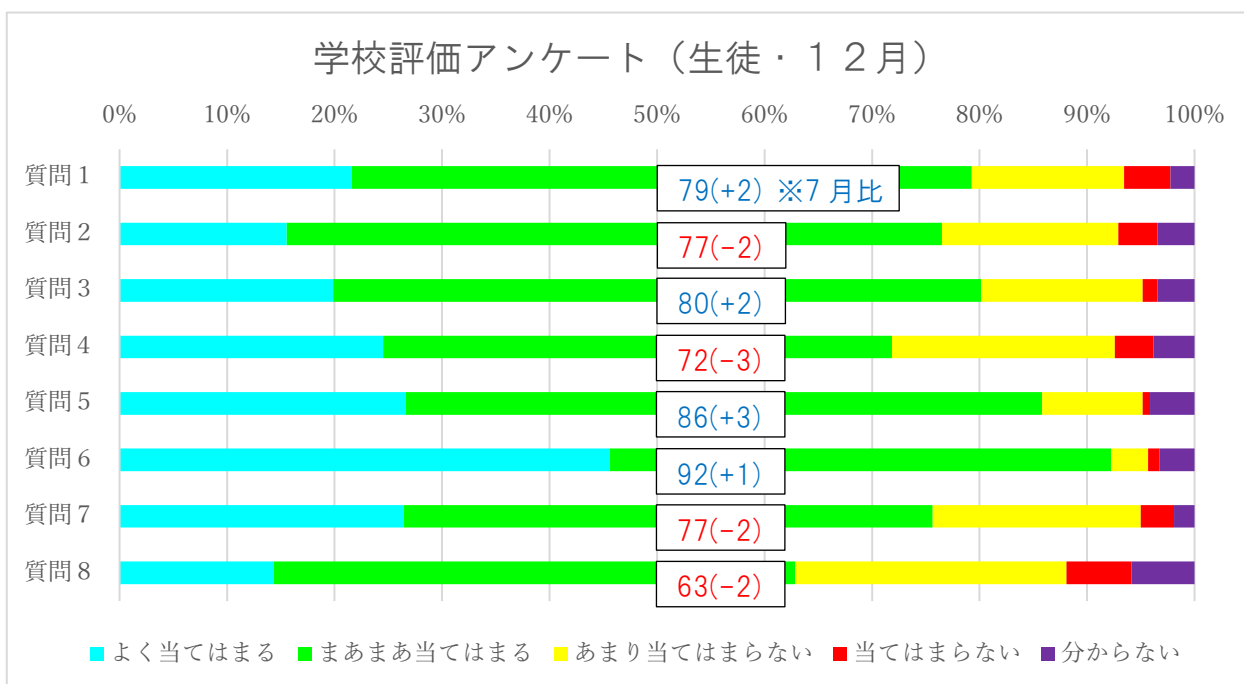
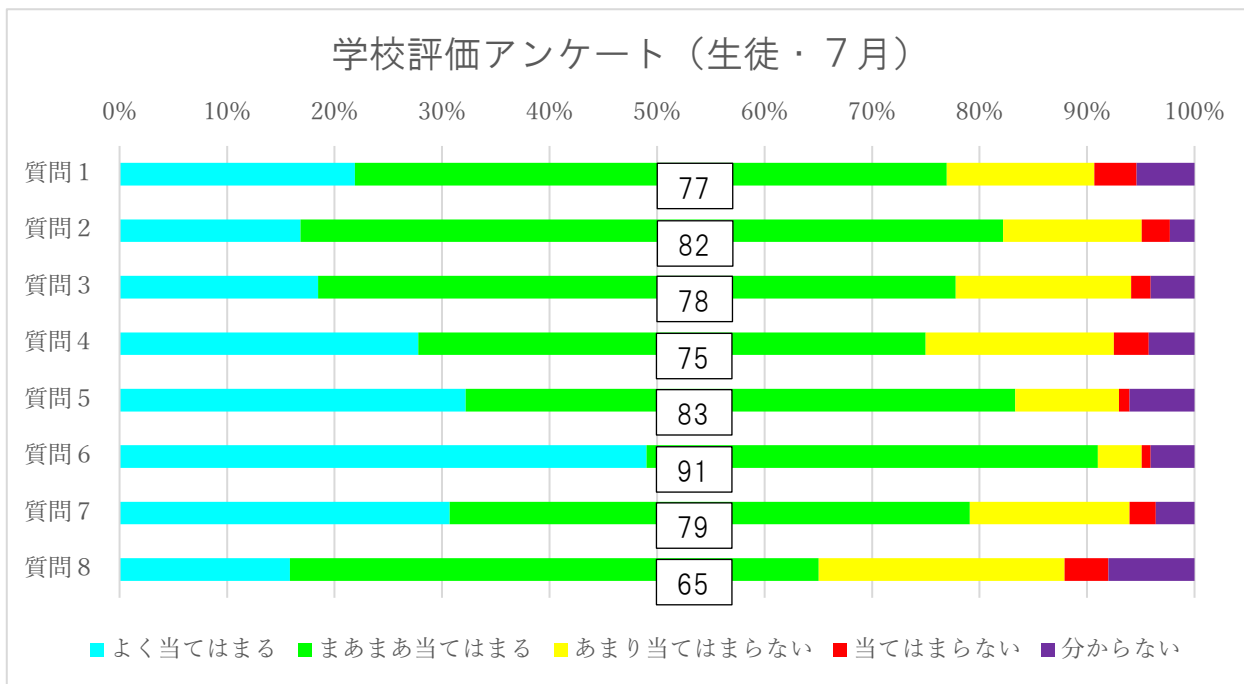
- | | |
|-----|---------------------------------------------|
| 質問1 | 学校や学級は楽しく、ホッとできる心の居場所になっている。 |
| 質問2 | 授業は、「わかる」「できる」「楽しい」。 |
| 質問3 | 「自律」を心がけた生活をしている。 |
| 質問4 | 「何事にもチャレンジしよう」「自分の夢や希望を実現しよう」としている。 |
| 質問5 | 「自分自身」「他者」「集団や社会」「生命や自然」に対して、よりよく生きようとしている。 |
| 質問6 | 学級や学年の仲間を大切にし、よりよい人間関係を築いている。 |
| 質問7 | 日頃の生活から、心も体も健康になるような生活を心掛けている。 |
| 質問8 | 治中生としての自覚をもち、家庭や地域のために貢献している。 |

(2) 結果の分析および今後の方向性

- すべての項目で、「よく当てはまる」「まあまあ当てはまる」という肯定的な回答が多く見られました。今年度の「治郎丸中学校の教育」が、概ね達成できていたと思われまます。一つ一つの手だてを、よりよいものに見直ししながら、引き続き、「知徳体」をバランスよく育てていきます。
- 質問1・6において、肯定的な回答の割合が増加したことから、日々の生活を通して、生徒は「学校が楽しい」「みんなで何かするのは楽しい」と感じる事ができたと思われまます。引き続き、特別活動（学級活動や生徒会活動、部活動など）を中心に、生徒が多様な他者とよりよい関係を築ける場を作ります。また、否定的な回答をしている生徒もいることから、これまでの教育相談活動に加えて、オンライン相談窓口「心のポスト」を開設するなどして、生徒の声を聞くことに努めます。
- 質問2において、肯定的な回答の割合が減少したことから、日々の生活を通して、生徒は「授業がよくわかる」と感じる事があまりできなかったと思われまます。本年度は、現職教育のテーマの一つに「振り返りの場」を掲げていましたが、生徒が自らの学びを確かめたり、成長を実感したりする場

としては不十分だったと言えます。この項目については、教職員による自己評価と差が見られました。仲間との話し合い活動や ICT 機器の活用を取り入れるなどして、生徒が成長を実感できる魅力的な授業づくりを進めていきます。

- 質問4において、肯定的な回答の割合が減少したことから、日々の生活を通して、生徒の主体性をあまり育むことができなかったと思われます。この項目については、教職員による自己評価と差が見られました。アイルタイム（総合的な学習の時間）を中心に自らの生き方を考えるキャリア教育を充実させたり、特別活動を中心に生徒が主体となって活動できる場を設けたりして、生徒が夢や希望の実現に向けて、努力したり挑戦したりできる力を育てていきます。



※枠内の数値は、「よく当てはまる」と「まあまあ当てはまる」の割合を合計したもの

2 保護者アンケート

(1) 質問項目

- 質問1 学校は、「楽しい学校づくり」「心の居場所となる学級づくり」に努めている。
- 質問2 学校は、「わかる」「できる」「楽しい」授業を行っている。
- 質問3 学校は、生徒の「自律」に向けて努めている。
- 質問4 学校は、チャレンジする気持ち、自己実現に向かう意欲を高めている。
- 質問5 学校は、道徳的な判断力、道徳的な心情、道徳的な実践意欲と態度を育てている。
- 質問6 学校は、思いやりを満たした温かい人間関係の構築や、社会性の育成に努めている。
- 質問7 学校は、健やかな心と体づくりに努めている。
- 質問8 学校は、保護者・地域の方々とともに、学校づくりに努めている。

(2) 結果の分析および今後の方向性

- すべての項目で、「よく当てはまる」「まあまあ当てはまる」という肯定的な回答が多く見られました。今年度の「治郎丸中学校の教育」が、概ね達成できていたと思われます。一方で、7月から12月にかけて、肯定的な回答の割合が減少した項目が多数ありました。一つ一つの手だてをよりよいものに見直しながら、引き続き、「知徳体」をバランスよく育てていきます。
- 多くの項目で、「分からない」という回答が10%程度見られました。日々の学校生活の様子を、各種おたよりやホームページ、tetoru等で伝えていくように努めます。

(3) 寄せられた意見と回答（一部のみ）

- 学校や校外活動などでの様子を、校内の展示物だけでなく、「tetoru」を通してもっと詳細に伝えてほしい。子どもから聞いた話を、家族で一緒に楽しめるようにしてほしい。
- 学校の中のことが分からないために、回答が「分からない」になってしまう。
→ **学校ホームページや「tetoru」での情報発信に努めます。**
- 各教科の持ち物や課題がしっかりと伝わっておらず、子ども同士がスマホで情報共有をしていることがある。スマホを持っていない子どもが不利益になることは避けてほしい。
→ **帰りのSTでの教科連絡をしっかりと行うとともに、欠席した生徒にも確実に連絡が伝わるように、タブレットPC（Microsoft Teams など）を利用した連絡方法も検討していきます。**
- 教科書や資料集などの本が多く、毎日の登下校時の荷物が重過ぎて心配である。
→ **教室に置いてよい教材は各自で判断することになっています。今後、タブレットPCに、各教科のデジタル教科書がインストールされた場合、教科書は持ち帰らず、タブレットPCのみ毎日持ち帰るという方法も考えられます。**
- 校舎やトイレが古い。
→ **施設の改修要望を稲沢市教育委員会にしています。予算の都合で、全てが実現するわけではありませんが、令和6年度は、体育館東側（フール跡地）の駐車場整備、体育館エアコンの設置などが予定されています。**

- ・ 体育祭のとき、保護者席から子どもたちの様子がよく見えなかった。
→ **本年度も、たくさんの保護者の方にご参観いただきまして、ありがとうございました。本年度は、武道館南側の駐輪場を中心に保護者席としましたが、生徒や職員の動線は確保しながらも、本部席の南側（クラブハウスの前辺り）も保護者席とすることを検討しています。**
- ・ 校則（心得）が時代に沿ったものによって変わっていいと思う。
→ **本年度は、生徒会執行部を中心に「靴」の規定について見直しました。校則（心得）の見直しについて、スピード感をもって進めるのと同時に、学校生活の主役である生徒の意見をしっかりと聞くことを大切にしています。来年度も、生徒たちの声を元に、さまざまな検討を進めていきます。**

